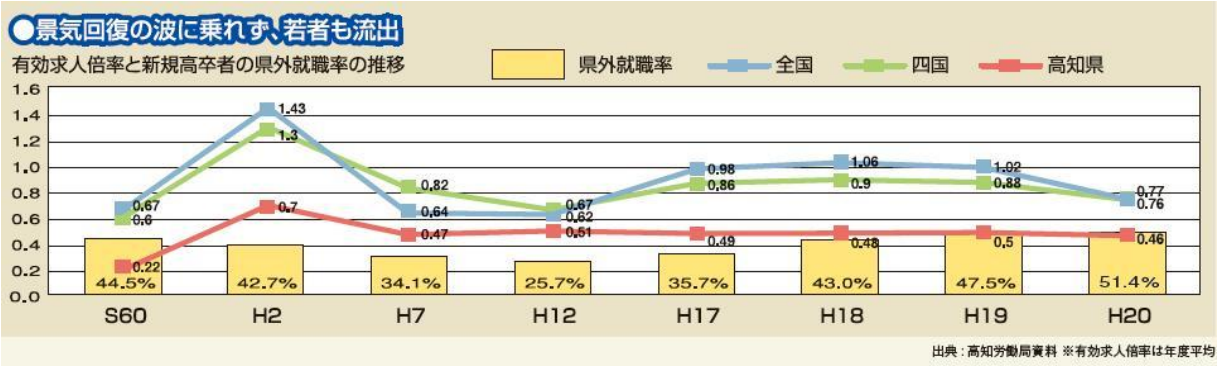
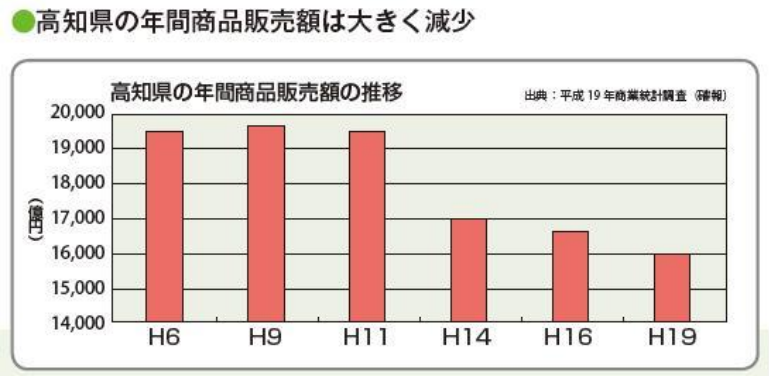
【経済の取り組みについて】

高知県産業振興計画の最初のページを開いてください。

高知県の経済、非常に今、苦戦をしています。大変な苦しい状況がずっと続いています。この折れ線グラフ（次ページ上段）があるでしょう。これは高知県の有効求人倍率の推移、流れを表したグラフです。１人の求職者に対して求人数がどれだけあるか。就職先がどれくらいあるかを表しているグラフです。平成１２年くらいから平成２０年くらいまでにかけてを見てください。




このオレンジ（高知県）の折れ線グラフと、青い（全国）の折れ線グラフを見てもらうとわかりますが、全国の方の折れ線グラフは、平成１２年から１９年ぐらいにかけてずっと上向きに上がっています。だけど、高知県は上に上がらないまま横ばいになっているでしょう。高知県は１人に対して０．５くらいしか仕事がないという状況がずっと続いてきたんです。




もう１つ、高知県の年間商品販売額のグラフ（左）を見てください。これをご覧いただくと、平成９年の時、高知県で売れた商品の金額は２兆円。それに対して平成１９年は１兆６０００億円ぐらいしか物が売れてないということがわかっていただけると思います。

これはどういうことかというと、経済の規模がこの間に２割も縮んだということです。普通は、経済の規模というのは年を追うごとに大きくなっていきますが、でもこの高知県においては、平成９年から平成１９年まで２割も経済の規模は小さくなりました。

どうして小さくなったかというと、人口が減ったからです。もっと言うと、働く人の数が減ったから。人の数がどれくらい減ったかというと、平成２年には高知県の人口は８４万人いましたが、今では７７万人を切るぐらいまで高知県の人口は減っています。仕事を

している年代のことを生産年齢人口といいますが、１５歳から６５歳くらいまでの年齢の人口は、２割ぐらい減っています。仕事をしていて、そしてお給料を稼いでくる年代の方の人口が２割減っているので、概ね人々が稼いでいるお金も２割くらい減っています。だから、商品を買ってくれる人の数も２割、商品の売り上げも２割ほど減っているというのが今の高知県の現状です。

これはものすごく深刻なことです。経済というのは、景気が良くなったり悪くなったり、海の波のように上がったり下がったりするのが普通です。だけど、高知県の場合はそうではなく、人口が減り、経済の規模も縮んでいくということがずっと続いているのが、現状です。

この室戸でも、大幅に人口が減っています。高知県で全体として減っている数は、７％から８％ですが、室戸はもっと減っています。他の中山間地域、他の地域ではさらに減っているところもあります。そういうところでは足元の経済規模がどんどん小さくなっています。

これに対して、高知県産業振興計画というのを作って、今、一生懸命やろうとしていることは何なのか。一言で言うと、地産外商ということをやろうとしているところです。足下の経済規模、自分達の周りの経済がどんどん小さくなる。そういう時に、自分達の周りだけに縮こまってしまっていては、明らかにジリ貧です。田舎だから、どんどん経済規模が小さくなっているところだからこそ、外に打って出て行って外からお金を稼いでくるということを必死になって考えなければいけません。

地産地消というのは、地場のものを地場で売り、自分達が買うものは基本的に地場のものを買いましょうという活動です。これもすごく大事です。でも、足下の経済の規模が小さくなっているので、これだけではいけません。田舎ほど外に打って出て行って、外からお金を稼いでくるということを、必死になって考えないといけません。そのために、今、県全体として地産外商をやろうとしています。

ニュースで盛んに、東京のアンテナショップなどについて取り上げてもらっていますが、あれも、高知のものを東京に持って行って売り込みをかけ、そして、外からお金を稼いで来ようとする活動です。

ただ、この地産外商を進めるということは、実際にはものすごく難しいことだと思っています。なぜなら、高知県の物を東京で売ろうとした時に、ライバルはたくさんいます。全国のいろんな県、いろんな地域が同じことをしようとしています。

東京は、日本の物だけではなく、世界各国あらゆるところからやって来たものであふれています。例えば、高知県産の木で作ったおもちゃが、東京に持って行ったら売れるかというと、東京にはノルウェーやスウェーデンの木を加工したおもちゃが輸入され、山のように売られています。ですから、並みの努力では地元の木を加工して持っていったからと、珍しいということにはなりません。その分、ものすごくエネルギーと知恵が必要になります。いい物を作らないといけないし、それから、並居るライバルを押しのけて物を売って

行く、その努力が必要だということです。

残念ながら、高知県の今の民間企業は、１０年間くらい厳しい状況が続いているので、外に物を持って行って売れるような商品を開発する力や販路を開拓し、売り込みをかけるような力があるかというと、必ずしもありません。だから、今、県庁と一緒になって物を売り込もう、そういう努力をしています。それが産業振興計画です。

もう１つあります。外からお客さんに来てもらい、高知県の中でお金を使ってもらおうという活動です。今、幸い、高知県は「土佐・龍馬であい博」、大河ドラマ「龍馬伝」のおかげで、たくさん、お客さんが来てくれていて賑わっています。でも、来年以降どうなるかとか、今から考え始めないといけません。

今年は龍馬さんのおかげでたくさん観光客が来てくれましたが、来年以降どうするかといった時に、高知県のどういうところに、観光客が来てくれるかということを考えないといけません。大阪や東京の人は、旅先をどこにしようかと考えた時、全国でいろんな候補地があります。その中で、高知県を、室戸を選んでもらう理由がないといけません。

何で室戸に来てくれるか。何で高知に来てくれるか。今年は、坂本龍馬のドラマをやっているから高知に来てくれたかもしれません。来年以降もできるだけそういう流れを維持していきたいと思っています。しかし、いつまで龍馬のブームは続きません。なので、できるだけ、それぞれの地域で、全国の人々にも訴えることのできるような特色ある観光地づくりというのを目指さないといけないと思います。

室戸は、「６１０ｃｌｕｂ（室戸クラブ）」の皆さんが一生懸命考えておられると思います。室戸ジオパークは、世界ジオパークを目指して取り組みを進めておられると思います。そういうかたちで、全国の皆さんの心をつかむような取り組みを、是非進めなければいけないと思っています。

ただし、簡単なことではありません。いかに世界ジオパークだとしても、世界ジオパークは日本の中にもう３つも４つもある。室戸は海がきれいで魚がおいしいと言っても、海が大きくて美しくて魚がおいしい場所が全国にたくさんあります。そういう中で、全国の人々があえて室戸を選ぶ理由をしっかりと考え出していかないといけないと思います。